# 夏草 ――「おくのほそ道」から (4)

松尾芭蕉

## 平泉

かねて耳驚かしたる※二堂開帳す。経堂は※三将の像を残し、

以前から話に聞いて驚嘆していた二堂が開かれていた。経堂には三将の像があり、

光堂は三代の棺を納め、※三尊の仏を安置す。

※七宝散り失せて、玉の扉風に破れ、

（かつてかざられていた）七宝は散りうせて、宝玉をちりばめた扉も長年の風に傷み、

金の柱霜雪に朽ちて、既に頽廃空虚の草むらとなるべきを、

金箔の柱も霜や雪で朽ちて、もう廃墟の草むらとなるはずのところを、

※四面新たに囲みて、甍を覆ひて風雨を凌ぎ、

（鞘堂で）四方を新しく囲んで、瓦の屋根を覆って風雨をしのぎ（このおかげで）、

しばらく千歳の記念とはなれり。

当分の間は千年の昔をしのぶことができる記念として残っているのである。

**H** 五月雨の降り残してや光堂

五月雨もここだけは降り残した（降らなかった）のだろうか。光堂だけは今も昔の姿をとどめている。

※二堂…中尊寺の経蔵（経堂）と金色堂（光堂）の二堂。
三将…清衡・基衡・秀衡。三代も同じ。
三尊の仏…阿弥陀如来・観世音菩薩・勢至菩薩。
七宝…仏教における金・銀・瑠璃などの七種の宝。
四面～…鎌倉時代末期、光堂を保護するため、堂を覆う鞘堂が建てられ、以後補修、維持されている。

**中尊寺**

**中尊寺**は平泉にある奥州藤原氏ゆかりの寺院。境内には経蔵（経堂）・金色堂（光堂）などが建ち並ぶ。

**確認テスト** 本文を読んで、問いに答えなさい。

(1) 本文の内容に合うものを選びなさい。

ア 芭蕉は以前から二堂のことを聞き知っていた。
イ 経堂には奥州藤原氏三代の棺が納められていた。
ウ 光堂は既になく、草むらとなってしまっていた。

〔　　〕

(2) ——線部「しばらく千歳の記念とはなれり」とあるが、なぜ光堂は残っているのか。適当なものを選びなさい。

ア 玉の扉によって、風が吹きつけるのを防いでいたから。
イ 金箔の柱があることで、霜や雪にも朽ちなかったから。
ウ 四方を囲み、瓦で覆って風雨をしのいでいたから。
エ 平泉には雨や雪が降ることがなかったから。

〔　　〕

(3) Hの句に含まれる季語と、季語が表す季節を答えなさい。

季語〔　　〕　季節〔　　〕

(4) Hの句に含まれる切れ字を書きぬき、句切れの種類をア〜ウで答えなさい。

切れ字〔　　〕　句切れ〔　　〕

ア 初句切れ　イ 二句切れ　ウ 句切れなし